

つ・な・ぐ



若い世代とボランティア… はじめの一步は夏ボラから

夏が近づいてくると「今年の夏ボラはいつからですか？」こんなお問い合わせが増えます。今年は万全なコロナ対策を講じながら実施します。現在、受入団体募集中。若い世代を見守りながら、一緒に活動しませんか！

(夏ボラ：若者のための夏休みボランティア)

■ ■ ■ 2012年からはじまった夏ボラ～活動の中からエピソードをご紹介します ■ ■ ■

episode1

体験が何より大事！
「そうなんだ！」と気づき生まれる

「今まで、公園の花壇を見ても何にも思わなかった。でも、こんなに世話をしている人たちがいるから、きれいに咲いているんですね」と話してくれたのは、若者のための夏休みボランティアに参加した高校1年生。通学途中の公園は、これまで花が咲いていてもさして気にもならず、通り過ぎるだけでした。

しかし、猛暑の中、汗だくになって草取りを「実際にやってみることは」、「そうなんだ！」(たくさんの方々が関わって、はじめてきれいな花壇になる)という発見や気づきとなったとのこと。さらに、自分が住むまちへの興味や関心につながったといいます。



episode2

「参加者と団体スタッフ、そして市民」
ゆる～くつながった瞬間が心地よい！

数年前の夏ボラの風景。早朝、暑さ対策を万全に古着回収のボランティアに参加した中学2年生。自宅近くの回収場所での活動となりました。古着を受け取った時に「アラッ、〇〇ちゃん」続けて「エライね。頑張ってる！」と声をかけられ、参加者ははにかみながら「頑張ります」と答えました。それを見た団体スタッフも何となく嬉しくなって目を細める……。

何気ない一瞬ですが、夏ボラには“ちょっと嬉しいこと”があります。後日、提出された活動日誌には、「古着を持ってきたご近所の人から頑張ってるねと言われて、とても嬉しかった」と書かれていました。



「若者のための夏休みボランティア2022」スケジュール

受入団体
募集

4/1～4/22

参加者募集
6/1～7/3

受入団体説明会
7/10 (予定)

グループガイダンス
7/16・17

夏ボラ
実施

7/20～8/31

参加証授与
9/4

ふりかえり
9月中旬

地域での居場所づくりの必要性

～コミュニティカフェ・地域食堂・こども食堂から考える



3月20日（日）、浦安市市民参加推進課主催の講演会がオンラインで開催されました。講師として「子どもの未来サポートオフィス」代表の米田佐知子さんをお招きし、「地域での居場所づくり」をテーマにご講演いただきました。米田さんは市民活動や人とつながる場の支援をされています。これまでのご経験を踏まえて、地域における居場所の重要性やその事例についてご紹介いただきました。

地域をより過ごしやすい場所にできるのは私

米田さんが地域の「居場所」に目を向けたのはご自身の子育てがきっかけとのこと。生まれ育った地域での子育てではなかったこともあり、子連れで過ごせる物理的な居場所も、所属や役割という精神的な居場所もなく、地域での孤立を感じたそうです。そんな中、一緒に活動をする仲間を求めて市民活動を開始。ところが、当初集まった人たちには「用意された場に参加する」お客さん意識があること、またご自身にも役所に対して「してもらおう」というお客さん意識があることに気づきました。その後、一緒に活動をしていく中でお客さん意識が消え、参加者が仲間になっていくことを体感。また、子育てをする中で発見した地域課題に対して、自分たちの思いや意見を伝え、地域の人の協力も得て、改善することを経験。問題に気付いた時は声をあげ、周囲も巻き込みながら自分たちで解決する大切さを学ばれたそうです。

コミュニティカフェは社会につながる入口

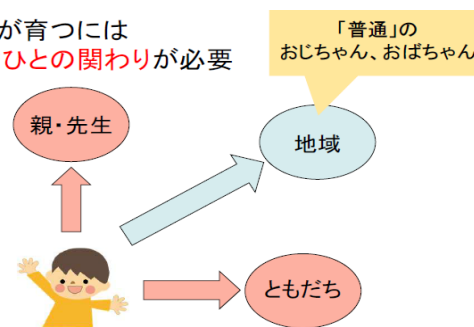
コミュニティカフェは誰でも参加できる集いの場。開催場所は公共施設のみならず、商店街の一角、お寺や高齢者デイサービス、スポーツクラブなどもあり、それぞれに個性があります。目的や運営方針、雰囲気も多様ですが、「地域と社会につながる機会が用意されている」という点はどのカフェにも共通しています。魅力あるカフェをつくるためには、オープン前にすでにある「つながり」を生かしたり、ネットワークをつくること。コミュニティカフェは参加者自身が育てるので、育つ過程を見せていくことが重要です。みんなで力を合わせてつくっていく中で仲間や場が生まれ、信頼できる人のつながりが増えていきます。お互いのつながりを借り合うことで新たな場にも発展していきます。

食を通じてつながることの大切さ

確認されているこども食堂の数は全国で6007カ所（2021年12月現在）。この3年で3倍に増えました。その背景には子どもを取り巻く3つの貧困①経済的②関係性（つながり・居場所）③経験（食育・体験）があります。こどもの孤食が増加し、色々な年齢の多様な人と過ごす機会も減少している中、こども食堂の存在意義は大きいです。最近では開催場所も公共施設だけではなく

保育園や高齢者施設、飲食店舗、コンビニなど様々な場所で開かれています。子どもたちは一緒に食事することでリラックスし、話も弾み、遊び、そこからつながりが生まれます。こども食堂には子どもの生きる力を育むもの一食べる・学ぶ・遊ぶ・社会とのつながりがあります。

子どもが育つには
多様なひとの関わりが必要



異年齢の多様な人と過ごす子どもは1割以下

居場所づくりは焦らず小さくはじめる

親戚・職場・地域の関係希薄化が進んだ現代においては、ゆるくつながることが大切になります。まずは自分ができる小さな行動を起こしてみませんか。参加した人が仲間になり、そこから波紋がひろがるように、関係が広がっていく。必要に合わせて居場所を育てていきましょう。



参加者の声

- ▶空いているマンションの集会室で、なにかできないかと考えていました。住民カフェができれば、いいなと。季節初めにフリマ、ちょっと預り保育、託児など。
- ▶人とのつながりが希薄になり、居場所を失くす弊害があらちちで生じています。居場所とはとても大切だと思います。
- ▶当事者意識を持って、次の活動を具体的に考えたいです。

前向きな取り組み事例を多数学び、今こそ人と人とのゆるやかなつながりで助け合うときなのだと改めて感じる機会となりました。居場所も仲間も、誰かが用意して与えてくれるものではありません。自分の住んでいる地域や身の回り、興味関心のあることに関して自分から行動を起こしていくことで、居心地の良い場や関係が少しずつ築かれていくのですね。

（市民ライター 西橋 友理）



浦安市発達障がい等地域活動支援センター「ミッテMitte」
センター長 福田 真清 さん



ミッテで叶える"居場所づくり"

「社会福祉法人千楽」が運営している、浦安市発達障がい等地域活動支援センターミッテMitte（以下、ミッテ）では、発達障がいのある方などへの支援を行っています。利用者にとってここは“居場所”のひとつ。ミッテではどのようなことを大切にして“居場所づくり”を行っているのでしょうか。センター長の福田真清さんにお話を伺いました。

ミッテは こんなところ

利用者は1日に10名前後。発達障がいといってもひとりひとり様子は違い、すでに就労していて、その息抜きにきている方から、社会に出る準備時間にあてての方など、ミッテを利用する目的は幅広いです。スタッフも福祉の専門知識をもつ常勤スタッフから、福祉に関心のある学生まで、顔ぶれも様々です。

利用者の皆さんはそれぞれに目標を設定し、そこに向けて面談や活動を通して、2年間を目安に段階的にステップアップしていきます。ここでの活動内容は調理や運動、芸術・制作などがありますが、その一環として建物のバルコニーにある畑で野菜や果物を育てています。最近、設置したコンポスト堆肥を使って土作りから収穫まで一連の作業が行えると、今まで以上に達成感が得られる活動になるかと思えます。その他にもクッキー作り・販売といった、様々な体験を通じて、各々が活躍できる場を提供しています。

ただ、発達障がい等のある方に対する居場所があるだけで良いのかというと、そうではありません。中には居場所に行く一歩がなかなか踏み出せない方もいます。こうした方には居場所にたどり着くための工夫も必要な支援だと考え、本人が「少しだけ行ってみようかな？」と思えるようなプログラムづくりや環境面への配慮を心がけています。

いろいろな人とつながる大切さ

ミッテを利用される方の中には、東野パティオに活動拠点を置く「スマイル♡こども食堂浦安」さんでボランティア活動に励み、地域で活躍の場を見つけ出した方がいます。また最近では、市民活動団体「スマイラー」さんの協力でネイルアートやスマホのカメラ機能を使った写真撮影といったワークショップを毎月開催していますが、ここでも性別や年齢を問わず参加者同士の輪が広がっています。この他、大学研究室とIT企業とともにVR（バーチャルリアリティ）活動にも本格的に取り組んでいく予定で、ひきこもりの方や高齢の方などへの支援に活用していきたいと考えています。

絵画 利用者の方が描かれた絵画を市民活動団体「スマイラー」が装飾



ミッテが提供する居場所は障害福祉サービスのひとつですが、「福祉サービス・制度には乗れないけれども居場所は欲しい」「誰かと一緒に過ごせる時間が欲しい」と思う方もいます。こういう方へのニーズに市民活動の協力が得られると、より多くの困りごとや悩みごとの解消につながるかと思えます。

また、児童福祉、障がい福祉、高齢福祉といった縦割りでない横のつながりが地域住民や福祉関係者の枠を越えてできると、「福祉でできること」の可能性はさらに広がっていきます。ここに市民活動の協力もあれば、より発展するでしょうし、実際、学生ボランティアの方からヒントや新しい視点がもらえているのも事実です。今後も「皆と同じ輪にミッテもいる」という意識を大切に、障がいの有無や性別、年齢を問わず幅広い市民の皆さんとつながりながら、誰もが集まることのできる「場」のある地域づくりを行っていければと思います。

▲毎月第2・第4金曜日はこども食堂の活動日



▼東野パティオ3階で収穫した「浦安市産」の白菜



お話を伺う前は「ミッテ」それ単体で発達障がい等のある方々にとっての“居場所”であるという印象をもっていました。しかし今回のインタビューを通して、他の事業や人々との連携を図りながら、利用者にとっての「“新たな居場所”を開拓していくための第一歩」としての居場所であるというイメージに変わっていききました。障がいの有無やレベルに関わらず、それぞれが自分らしく活躍できる場を見つけられる社会が当たり前になることを願ってやみません。

（市民ライター 武田 めぐ）

令和4年度市民活動補助金交付事業決定

地域で抱える社会的課題の解決や、よりよい市民生活の実現のために、市民活動団体が、自ら企画立案し実施する公益性の高い、団体の自立・発展に効果的な事業について、市はその事業費の一部を補助しています。令和4年度市民活動補助金事業は以下の2つです。

自立促進事業（はじめの一步）

事業名

肢体不自由児きょうだいの会をもっと知ってもらいたい！

団体名

肢体不自由児きょうだいの会「ぞうさん組」

事業名

HSP/HSCの周知活動

団体名

HSP/HSCリンクパートナー「Heart Smile Present」

もっと“まち”を楽しもう！
多世代交流・地域交流イベントを開催します

「まちプラ文化祭・市民活動フェスタwith」

コロナ禍の影響で順延となっておりました「with」は、下記の通り、5月開催となりました。市民活動団体の展示や楽しいワークショップも多数。ぜひ、ご来場ください。

日時：5月15日（日）10時～16時

場所：浦安市まちづくり活動プラザ
（浦安市入船5-45-1）

内容：展示、展示＋ミニワークショップ
ワークショップ、販売、映画上映会など

詳細については、こちらをご覧ください
URL <https://bit.ly/3L6sDaz>



利用承認の申請について

令和3年度の市民活動センターの利用承認期間が令和4年6月30日に満了となります。引き続き施設のご利用を希望される場合は、利用承認手続きを行ってください。

提出書類

- （1）市民活動センター利用申請書
- （2）市民活動センター利用承認団体登録
内容確認票

※書類一式は「つなぐ2022.春号」に同封しております。現在の登録内容も記載しておりますので、ご確認いただき、変更項目の修正をお願いいたします。データで必要な方はセンターHP内「センターからのお知らせ」よりダウンロードしていただけます。（データには現在の登録内容は記載されていません）

提出方法

直接持参または郵送、Eメール、FAX

提出期限

令和4年5月31日（火）

提出・問合せ先

浦安市市民活動センター



センターホームページの リニューアルについて

7月よりSNSやスマートフォンとの連携を充実させた新しいホームページへの移行を予定しております。

現在ご登録いただいている内容はそのまま引き継ぎますが、マイページの操作方法などには変更があります。移行の具体的な日程や操作方法説明会の日時などは決まり次第、ホームページやメールマガジン（5日・20日発行）でお知らせいたします。

センター日誌より

この季節、“まさに春”を実感すること……。センターから眺める境川沿いの桜。そして、もうひとつはセンターに届けられる“こいのぼり”。

「実家で使っていたもので、古いですが……」「息子の初節句に買ってくれたもの、小さい頃は毎年飾っていました」と思い出話を添えて市民の方がお持ちになります。大切にお預かりして、次は「境川にこいのぼりを泳がせる会」の方々のもとへ。今年も元気に泳ぐこいのぼりが見られることでしょう。



問い合わせ・申込みは
市民活動センターまで

発行：浦安市市民活動センター
2022年4月10日

〒279-8501千葉県浦安市猫実1-1-1（市庁舎10階）

TEL: 047-305-1721 FAX: 047-305-1722

E-mail: shiminkc@jcom.home.ne.jp

URL <http://u-shimin.genki365.net>

